# 中南地区統合校開設準備委員会（第１回）概要

日時：平成３０年５月１６日（水）
１０：００～１２：００
場所：青森県立黒石商業高等学校　４階　総合実践室Ⅱ

＜出席者＞
委員
黒坂　孝 委員、大久保　朝彦 委員、三上　雅也 委員、藤田　克文 委員、
山内　孝行 委員、古山　哲司 委員
オブザーバー
県立黒石高等学校
工藤　康暢 教頭、小野　淳美 教頭、原子　敏 事務長、竹村　俊哉 教務主任
県立黒石商業高等学校
川代　由美子 教頭、福士　桂子 事務長、須藤　慎二 教務主任、
菊谷　哲 情報デザイン科主任

## １　開会

## ２　委嘱状交付

佐藤教育次長から、各委員へ委嘱状を交付した。

## ３　佐藤教育次長挨拶

佐藤教育次長から、挨拶があった。

## ４　設置要綱説明

事務局から、資料２により説明した。

## ５　委員長及び副委員長選出

委員長に古山　哲司委員、副委員長に黒坂　孝委員及び三上　雅也委員を選出した。

## ６　事務局説明

### （１）青森県立高等学校教育改革推進計画第１期実施計画

事務局から、資料３について説明した。

### （２）中南地区統合校の設置に向けた検討の進め方

事務局から、資料４について説明した。

## ７　意見交換

### （１）両校紹介について

委員長から副委員長である両校の校長に対し、それぞれの学校の状況について説明を求めた。

（黒坂副委員長）まず、沿革について学校要覧を用いて説明する。本校は大正１４年、黒石町立黒石実科高等学校として創立された。昭和２３年、青森県立黒石高等学校と改称され全日制課程普通科が設置された。同年５月には定時制課程も設置された。昭和４４年、衛生看護科が設置された。平成６年、英語科が設置され３学科の学校となった。平成１２年、尾上総合高校との学校間連携を開始し、尾上総合高校の生徒が本校の福祉の授業を受けることとなった。平成１４年、衛生看護科が募集停止となり、新たに看護科が設置された。平成１７年、看護科に専攻科が設置された。平成１８年には英語科が募集停止となり、平成２８年、定時制課程が閉課程となった。現在は普通科３学級１２０名、看護科１学級４０名の合計１６０名の募集定員となっている。このほか看護科には専攻科がある状況である。

生徒の進路状況については学校案内を用いて説明したい。平成２８年度の卒業生の進路については大学４５名、短大１４名となっており、平成２９年度では大学５１名、短大７名となっている。普通科の生徒の約半数が大学または短大に進学している。残り生徒の半数が専修学校等に進学しており、残りの生徒が就職している。なお、看護科については専攻科に進学し、専攻科修了後は多数の生徒が看護師になっている。また看護師資格のほかに、保健師や助産師の資格取得を目指すため進学している生徒も数名いる。

本校の特筆すべき活動を３点紹介したい。

１つ目は、平成２４年度から実施している協調学習である。本校に赴任した教員に対する研修会を開催し協調学習の模擬体験を行っており、本校の全ての教員が協調学習を展開できる状況になっている。

２つ目は、学校設定科目の「ボランティア探究」である。県内では本校と六戸高校が展開していると認識している。昨年度の実績は３学年で１０６名の生徒が登録しており、延べ活動者数は約２５０名となっている。活動内容は保育園等の福祉関係施設の運営補助のボランティア、地域の祭りのイベントボランティア、環境整備のボランティア等がある。

３つ目は学校全体で「黒石よされ」に参加していることである。今年も８月１５日に１、２年生は全生徒、３年生は希望する生徒、さらに教職員が参加することとしている。

（三上副委員長）沿革について学校要覧を用いて説明する。本校は昭和４９年、情報処理科、商業デザイン科、事務科、営業科の４学科合計２７０名で開校した。昭和５４年、学科転換により、商業科、情報処理科、商業デザイン科の３学科となった。平成３年、商業デザイン科が情報デザイン科に転換している。現在は商

業科及び情報処理科の定員１２０名をくくり募集し、情報デザイン科で定員４０名を募集している。

本校の取組について学校案内を用いて説明したい。校訓は「自戒」、「慈愛」、「寛容」となっている。本校の創立からの基本精神である「誓いのことば」の実践により、社会に貢献できる心豊かな人の育成に努めている。

今回は特に情報デザイン科について紹介したい。開校当初は商業デザイン科であり、デッサンを中心に授業を進めていた。平成３年、情報デザイン科に学科転換したことにより、これまでの学習に加えコンピュータグラフィックを活用した授業を展開している。学習内容として、１年生では「グラフィックデザイン」の中で色彩理論、平面構成、デッサン、イラストレーション、レタリング等を学習し、２年生以降はコンピュータグラフィックを活用したデザインの実習を行っている。これらの授業を通して、広告やポスター等のグラフィックデザインを学習し、未来を志向する創造的な人財の育成を目指している。

この学習のための教育環境として、最新のアップルコンピュータを整備し、グラフィックソフトを使用した実践的で専門性の高いデザイン教育を展開している。デッサン及びコンピュータグラフィックが情報デザイン科の両輪となっている。

学校全体の進路について紹介したい。平成２８年度の卒業生は進学が約５２パーセント、就職が約４８パーセントとなっている。平成２９年度の卒業生は進学が約４７パーセント、就職が約５３パーセントとなっている。このうち、情報デザイン科の卒業生の進路では、進学が約６６パーセント、就職が約３４パーセントとなっている。約２３パーセントの生徒が大学、短大に進学し、その他の生徒は専修・各種学校に進学している。

次に情報デザイン科の地域活動について紹介したい。平成２年には黒石郵便局の巨大壁画を制作するなど「文芸の里黒石」に様々な形で協力しているところである。昨年度は、黒石よされ実行委員会等の依頼を受け、黒石よされこけし提灯の制作等を行っている。学校全体としては、黒石こみせまつりの手伝い等で地域に協力している。

また、情報デザイン科では黒石市内の散策マップのクリアファイルも制作するなど黒石市を題材に取り上げた活動を展開している。多くの方々に情報デザイン科の作品を紹介する場として情報デザイン科の作品展を２月に開催しているので是非足を運んでいただき、本校の生徒の作品を御覧いただきたい。

**（２）校名について**

委員長から事務局に対し、これまでの本県県立高校の校名の状況について説明を求めた。

事務局から、資料５について説明した。

委員から、次のような意見があった。

○　この資料５にあるように、これまでの県立高校の校名は市町村内に１校のみ設置されている場合はその地名を冠しているので、黒石という名前は残さなければならないと感じる。一つの参考例であるが、現在、黒石市では小・中学校の適正配置に向け大規模な統廃合を進めている最中である。具体的には、小学校１０校、中学校４校合わせて１４校を最終的には６校にし、８校減ずるという計画を進めている。中南地区統合校が開設する平成３２年度にこの計画の一つの段階を終えることになるが、この計画を進めるに当たり、ある小学校の学校名が大変大きな検討課題として出た。具体的には黒石小学校、中郷小学校、北陽小学校の３校を１校に統合する際、統合した小学校を中郷中学校の隣に設置することとなり、どのような校名にするか意見が分かれ検討が深まった。最終的には黒石小学校に決定した。私はこのような経緯もあるので、やはり「黒石」という名前は欠くことができないと考えている。

○　今までも青森県立高等学校の校名の場合、地名が主体となっていることから、このような経緯を踏襲し「黒石」を主体に考えた方が良いと感じている。

○　これまでの高校教育改革の中で、校名の付け方というのは、おそらく変わっていなかったと思う。それを考えると校名の付け方についてはこれまでの連続性を保ったまま考えた方が良いのではないかと思う。

○　やはり地名は様々な愛着を持っている人が多いと考える。各校の校名を見れば地名が入っていることから、地名は入った方が良い。

○　自分は黒石市で生まれ黒石市で育っているので、やはり「黒石」という地名を使うことは必要だという考えを持っている。ただし、新しい学校というイメージも必要だと考える。黒石市だけの学校ではなく青森県の学校であるので地名を校名に生かした上で、「黒石」を残しつつ新しく生まれ変わったというイメージを持てるような校名を考えていかなければならないかと思う。

○　「黒石」という地名を第一に考えていきたいということは全委員、一致した意見である。また、新しい高校だということを県民にイメージしてもらうためには、「黒石」プラス何かというところも検討していくべきではないかという考えを持つ委員もいた。

　私も校名には「黒石」が最初に来るのは外せないと考えている。ただ、「黒石高校」という校名をそのまま引き継いだ場合、黒石商業高校は黒石高校に吸収されてしまうようなイメージを持つ市民もいるのではないかという懸念もあり、「黒石」プラス何かといった校名も検討しなければならないかもしれないと考えている。

　また、校名が市民に根ざすためには、市民からすぐ覚えられるなじみがある名称でなければならないと感じている。

委員長から、校名については各委員が関係者の意見や市民の声等を聴取し、具体的な意見があった場合には次回以降の開設準備委員会において発表してもらいたい旨発言があった。

**（３）目指す人財像等について**

委員から、次のような意見があった。

○　黒石市はどうあるべきかと考えている。若者がどこへ居を構えるかと考えると、やはり自分の子どもの将来を考えると思う。そういう意味では教育環境というのは非常に大きな問題だと思う。私は黒石高校を卒業したが、黒石商業高校が設置された際には、教育環境が充実した方が良いという思いからみんなで協力した。私は、黒石高校と黒石商業高校が統合した中南地区統合校にあっては、あらゆるメニューを持った学校であってほしい。

例えば、人間が生きていくためには医療関係の教育の充実は必要であり、看護科は必要である。また、グローバル化を踏まえ、英語科があった強みを生かしてほしい。加えて、現在黒石商業高校にある情報デザイン科の教育が受けられる環境があるということは、黒石市の子どもたちにとってもプラスになると考える。

そのような意味では、黒石商業高校には今後も存続してもらいたいが、先程の資料を見ると、まもなく中学校卒業予定者数が何千人も減るという状況であり、これは何とかせざるを得ないと誰しも思うことだと考える。

したがって、様々なことを吸収できる教育環境が黒石市にあるのは、黒石市の子どもたちにとって非常にプラスであると考える。それを単なる感情ではなく、現在黒石市に住んでいる子どもたちにとってどうすればプラスになるかをみんなで考える必要がある。ここで生まれ育った子どもが、将来、全国のどの地域で生活したとしても、黒石市が世界へ羽ばたけていける地域だと思えるような教育環境を作っていく必要があると考える。

確かに我々が直面している統合という現実は、マイナス的な面で捉えられることが非常に多いが、本当の意味で子どもたちの将来を考え、前向きな発想で知恵を絞っていくべきではないかと感じている。

○　黒石高校や黒石商業高校を卒業しても黒石市内に就職できる環境が非常に少ない。そのため、現在卒業生は市外、県外に就職している状況になっている。

ただ、黒石高校でも黒石商業高校でも、地元に密着した形でボランティア活動を行っている。特に、黒石商業高校の情報デザイン科では、黒石市で行っている「健康かるた」の図柄の考案や、新黒石小学校の校章のデザイン等、様々な形で地元に密着している。逆に高校側からすれば、カリキュラムにはないことも様々お世話することになり、非常に大変な思いをしているかもしれない。しかし、そのくらい密着しているが故に、市民の方々にもそれこそ「黒高」、「商業」を大事にしなければならないという思いがあると思う。

したがって、学校が新しくなっても、あくまでも地元に密着した高校になってもらいたい。逆に、黒石市が徐々に衰退していく中で、このような良い学校が黒石市にあるということも全国に情報発信していただきたい。あくまでも黒石市だけではなく、田舎館村等周辺地域の子どもたちも進学するので、子どもたちを黒石市民が温かく迎え入れ、一緒に楽しい黒石市を作る、地元に残る子どもたちを育てるような学校にしていただきたい。

○　繰り返しになるが、平成３２年度は小学校を２校新設するなど黒石市にとって本当に大きな年度となる。７校の小学校が２校になり５校減ることになる。そのような年に、統合校が新設されるので、大きな期待が持てるような高校であってもらいたい。

具体的に言えば、普通科、看護科、情報デザイン科があるので、それぞれの学科が掲げる目標を大きく打ち出した高校であってもらいたい。

普通科については、大学進学を希望する地元の生徒のためにも、大学進学に特化した特進クラスのような環境を新設すれば良いのではないか。

看護科については、青森県、秋田県、岩手県の北東北三県では公立の看護科専攻科が唯一設置されているので従来どおりで良いと考える。

情報デザイン科については、例えば、美術系の大学と連携し、様々な資格を取得できるといった取組も考えられるだろう。また、これまでの高校ではできなかった授業内容等もあれば、生徒は将来的な希望が持てる。

さらには、そのような授業を行う実習棟等も学校の敷地に整備し実習ができるようになれば良い。

黒石市は歴史・文化があるので、こけしや黒石よされ等の文化も継承、拡張できるような学校になってもらいたい。可能であれば弘前市の方の生徒からも、情報デザインを学んで、挑戦してみたいと思うような学科であってもらいたいと考える。夢のような話であるが私の希望である。

○　黒石市という地域の学校になるので、統合校での学びをしっかり地域の方々にも理解していただき、地元に愛される学校になることが、第一に挙げられると思う。

そのためには、子どもたちが進学したい、保護者がその学校に進学させたいというような気持ちを持ってもらえるような学校運営ができれば良いと思う。

そして、入学してきた生徒たちが、その学校の学びによって、郷土や地元に誇りを持って、経済社会の発展に貢献できる人財になるような教育ができれば良いのではないかと考えている。

○　３つの学科が設置されているということを生かすことで、多様性を提供できるのではないかと考える。看護科については、平成２８年度から制度が改正され、専攻科を修了した生徒が４年制大学の３年生に編入できることとなった。その編入試験については、面接試験や専門試験もあり、英語の学力がかなり必

要となる。黒石高校は普通科が併置されていることから、５教科の教員も多数配置されている。したがって、英語科の教員から特別に個別指導を受けることも可能となっている。

情報デザイン科を卒業後、大学に進学する生徒もいるとのことだった。統合校には普通科が併置されていることから、英語に限らず、国語、数学、理科、地歴公民等、大学入試センター試験だけではなく大学の学科試験に必要な教科・科目の教員が配置されると思うので、その教員から指導を仰ぐ機会が当然多くなる。

それから、統合校には大学科商業の情報デザイン科が設置されるので、おそらく商業の専門の教員も配置されるであろう。現在の黒石高校の場合、普通科の生徒は文系用と理系用という進学用のカリキュラムしかない状態であるが、例えば、数学と英語等に科目選択という形で、例えば商業の科目も開設し選択できることになれば良いだろう。

かつて学校間連携で他校の生徒が福祉の授業を受けに来るという経緯もあるので、選択科目を設け、生活福祉系の科目を選択できる状態にすることで、進学を目指す理系・文系の生徒のほかに、例えば就職や専修学校進学を考えている生徒についても、商業・情報系の学習だけではなく福祉生活系の知識を身に付ける学習が可能となる。

全ての学科について、これまで黒石高校や黒石商業高校ではできなかった多様な学習の機会を提供できる学校になるのではないかと私は考える。

○　今伺った意見の中には、統合校の教育理念の根本的な部分に少しは触れた意見もあったのではないかと感じた。

委員長がオブザーバーに対し、次回開設準備委員会において、情報デザインに関する学びについて検討するための資料作成について協力を求め了解された。

## ８　閉会

## ９　情報デザイン科実習室等見学